

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2614102172
法人名	医療法人 松寿会
事業所名	グループホーム小野
所在地	〒607-8217 京都市山科区勸修寺閑林寺町83-6 (電話) 075-575-5533

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年12月8日	評価確定日	平成21年1月30日

## 【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 11 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	3 階 ~	3 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,200 円	
敷 金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4)利用者の概要( 11 月 11 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	共和病院・小野診療所・奥沢眼科・おの歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

醍醐地区にある地域に根ざす医療法人松寿会を母体を持つ当該ホームは、1階に診療所も併設されている介護サービスセンター内にあり、医療連携体制が整っています。理念が職員に浸透されており、利用者と一緒に暮らしながら、ゆっくり利用者のペースで支援することを心がけています。個々の役割や楽しみごとの他に、ホームのリビング壁面には利用者の共同作品である季節の壁紙が所狭しと貼られ、作品の制作も利用者の楽しみの一つになっています。また、地域や行政に積極的に働きかけることで、利用者が地域で安心して暮らしていける基盤づくりを推し進めています。管理者を中心とし、職員全員でホームの課題について話し合いながら、サービスの充実に向けて取り組まれているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の課題であった理念の見直しや、地域への積極的な働きかけ、自己評価票の作成を全員で取り組む等、前向きに検討し改善しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度の自己評価票は、管理者が作成された自己評価票を職員全員に見てもらい、意見を集約し、再検討して作成されました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はおよそ3か月に一度、家族、民生委員、地域包括センター職員、管理者、ホーム職員等が参加して開催しています。会議ではホームからの報告のほか、参加者から地域との関わり方についての助言を頂いたり、家族とのさらなる交流や行事参加について等、活発な意見交換の場となっています。また多くの家族が参加出来る様、日程の調整を考えています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来所持や電話にて苦情や意見を聞き、苦情・相談シートに記載しています。また家族にアンケートを取り、意見を聞いたり、玄関に苦情箱を設置し、出された苦情や意見は会議で話し合い検討しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	幹線道路沿いの商業地区で、近隣に民家も少ない地域ですが、自治会に加入し地域の情報を得て、近隣の柿狩りに利用者全員と職員が参加されています。また今年は雨天で参加できませんでしたが、地域の運動会や秋祭りに参加される等、管理者は常に地域に働きかけています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、今までの理念を見直し、これまでの理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく」に「地域とのふれあいを」という言葉を加え、職員全員でつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は家族や外部者からもよく見えるように、ホーム玄関に掲示している。理念を見直したことにより、理念の意義がより職員に浸透し、職員は心にゆとりを持ち、ゆっくり行動するように心がけている。また新任の職員には最初に理念を伝え、意識をもってケアにあたってもらおうよう指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幹線道路沿いの商業地区で、近隣に民家も少ない地域であるが、自治会に加入し地域の情報を得ている。近隣の柿狩りに出かけたり、今年は雨天で参加できなかったが地域の運動会や秋祭りに参加する等、管理者は常に地域に働きかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の改善点であった理念の見直しや、地域への積極的な働きかけ等、前向きに検討している。また今年度の自己評価票は、改善されたひとつでもあり、まず管理者が作成した自己評価票を職員全員に見てもらい、意見を集約し再検討して作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はおよそ3か月に一度、家族、地域包括センター職員、民生委員、管理者、ホーム職員等が参加して開催されている。会議ではホームからの報告のほか、参加者から地域との関わり方についての助言を頂いたり、家族とのさらなる交流や行事参加について等、活発な意見交換の場となっている。また多くの家族が参加出来る様、日程調整を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	申請手続きや議事録持参等で訪れた時は担当者に声をかけている。また京都市の実地指導を期に、アセスメントや介護計画の記入方法についてのアドバイスを受ける予定がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個人毎に管理者が毎月の利用者の様子を手紙にし、請求書と一緒に郵送している。その際預かり金の収支報告を同封し、来所持に領収書を見せ確認している。また職員の異動や運営推進会議の議事録も書かれた法人の季刊誌を郵送している。ホームでは支払を窓口でお願いし、月に一度は必ず利用者と家族の面会と直接報告する機会が持てるよう支援をしている。	○	金銭報告については、領収書の原本は家族に手渡し、コピーをホームで保管され、家族の確認後はサインをもらうなどが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所持や電話にて苦情や意見を聞き、苦情・相談シートに記載している。また家族にアンケートを取り、意見を聞いたり、玄関に苦情箱を設置している。出された苦情や意見は会議で話し合い、検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員が働きやすいような環境づくりを心がけ、悩んでいるような職員がいれば、声をかけ話を聞くようにしている。新しい職員には馴染みの職員が利用者との間に入り、フォローしている。また職員の異動については、季刊誌等で家族にも報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の研修等に随時参加している。法人内においても研修会、勉強会を開催している。参加者は報告書を残し、他の職員は閲覧し情報の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、交流や情報交換の場となっている。また他ホームとの交流があり、管理者のみならず、職員も見学等に参加し、交流している。今後は新たなホームとも職員間の交流を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、なるべく本人に見学をお願いし、少しでもホームで過ごしてもらっている。またこちらからも自宅を訪問し、情報を得るように心がけている。入居後は家族の協力を得ながら、少しずつ馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、職員は利用者から教わることも多い。職員は利用者とのコミュニケーションを多く持ち、一緒に過ごすことを大切にしている。また、職員が利用者の中に入り、仲を取り持ちながら共に過ごす関係作りも支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で得た情報は、毎朝の申し送りの際に他の職員に伝え、本人の意向について情報を共有している。また、家族からの情報も合わせて、カンファレンス等で検討しているが、アセスメントシートがうまく活用されておらず、十分な情報が記載されていない。	○	利用者が望むホームでの暮らし方の希望・意向をアセスメントシートに整理し、カンファレンスの場でも本人本位の意向を検討する情報としての活用も期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を聞いて、カンファレンスを行ない、介護計画を作成している。アセスメントが十分に整理されていないため、アセスメントに添った介護計画には至っていない。	○	アセスメントの内容を充実させることで、アセスメントを基に本人や家族、職員等の意見を出し合えるカンファレンスを行い、介護計画を作成できるような取組みが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度、カンファレンスを開き、見直しをされている。介護計画から個人毎に介護手順を作成し、実践に役立てている。状態に変化が見られる利用者については、その都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居室にある仏壇の花や嗜好品の買い物の同行や、利用者のダンス教室に出かける際の支援等、ホームではできる限り利用者の希望に添った対応を心がけている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者、家族に希望を聞き、かかりつけ医を決め、他のかかりつけ医を希望している利用者は家族の協力を得て通院している。ホーム1階に法人の診療所があり、利用者は週に一度受診している。協力病院との連携により24時間医療体制も万全である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化についてのホームの方針については入居時に家族にも説明し、了解を得ている。ホームでは、常に満足してもらえるケアを心がけている為、病院に入院された際にはホームでの生活の継続ができるか医師に判断を仰ぎ、家族に説明し対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライバシーを損ねる言葉使いをしないように努めている。管理者は、気になる言葉使いを耳にした時は、その場で注意をしている。また個人ファイルは事務所の鍵付きの書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間も個々によって違い、利用者のペースで一日を過ごすことができるように支援している。外出等についても、職員はなるべく利用者が希望された時に、対応できるよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日担当職員が利用者に希望を聞きながら献立を立て、足りない食材を利用者と一緒買い物に出かけている。利用者は下ごしらえ、調理、後片付け等を職員と一緒にしない、食事は同じテーブルで、話をしながら楽しく摂られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は毎日朝からお湯がはられ、夕方までの好きな時間に入浴が楽しめ、希望があれば毎日でも入浴可能である。ホームでは拒否のある利用者にもなるべく入浴をしてもらうために、職員が対応を工夫したり、家族の協力を得たりしながら支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでの役割として、掃除、洗濯、調理、カーテンの開け閉め等をそれぞれに担っている。花や野菜作りをされたり、利用者が共同で季節の貼り絵を作成する等、楽しみながら日々過ごされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園までや川沿いの散歩、日々の食材の買い物に出かけている。また、個別で喫茶店でお茶を楽しまれたり、外食やドライブにも出かけている。ホームでは、出かけられない日に、広い屋上を利用しての日光浴やお茶を楽しむ支援を予定している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは3階にあり、ホームが幹線道路に面していることもあり、エレベーターにはロックがかかっている。このことは家族にも説明し、同意を得ている。外に出たそうにしている利用者がいれば、一緒に出かける支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導のもと、昼夜を想定して避難訓練を実施している。近隣の消防団にも働きかけ、協力をお願いするとともに、地域の一員として地域の防災についての勉強会への参加を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量を記録に残し、水分については、時間毎にお茶を飲んでもらい、水分量を確保している。献立は法人病院の献立表を参考に、バランスを考え立てている。利用者が野菜を多く摂取できるように、飽きのこないメニュー作りを心がけている。また利用者の状態に応じた形態で提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口に暖簾をかけ、中の様子が丸見えにならない工夫がなされたり、食卓も観葉植物やソファーを利用して、空間づくりをしている。台所も広く、利用者と職員と一緒に食事づくりが出来るスペースが確保されている。またリビングの壁には今まで利用者が作られた季節の壁紙や外出の際の写真が飾られ、癒しのスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットと洗面台が完備された居室に、利用者が以前から使用していたベッド、家具、仏壇、冷蔵庫、姿見、椅子等を持参され、居心地の良い部屋作りを支援している。また自作の作品や鉢植えの花を飾られ、ベランダを利用して花を育てている利用者もいる。		